

大学名 茨城大学

第69号 特集テーマ「国立大学のこれから」

表題 本気の共創で地域に人が還流する仕組みを実現—地域課題を取り込むレジリエントな大学運営

大学生・卒業生の地域活性化志向は高まっているか？ 地域社会との「共創」は本当にできているのか？
正課での有給実習、地域一丸の技術者育成・・・真摯な対話と実践が地域の未来をつくる

問題意識

COC・COC+などの施策を通じて様々な取り組みを行ってきたが、大学生・卒業生の地域活性化志向は高まっているか？

茨城大学 デイプロマ・ポリシー要素 卒業時の達成度・卒業3年後の活用度の自己評価（2019年度卒業生）
卒業時は各要素の中で低め、卒業3年後の活用度はさらに低下



茨城大学が取り組み続けてきたこと

たとえば... 全学+各学部設置したアドバイザーボードでの対話
学生の学修状況を可視化したデータをもとにした、地域の企業や自治体、NPO団体等の関係者との対話を、独自の「教育の質保証」の取組みとして継続実施



地域課題のために一丸で挑む本気の共創

地域社会の反応



取組み例①

2024.4新設「地域未来共創学環」
長期有給実習を含むコーオプ教育を1年次より必修化
&企業・自治体との「教育課程共創委員会」設置

▶ 地域社会と大学による「組織的教育戦略」による人材育成！

実習先として
県内 **35**の企業等・
20の自治体
が協力の意向

取組み例② 茨城県北地域に女性技術者を増やす本気のプログラム

▶ 日本有数の鉱工業地域でありながら人口、産業規模が縮小している
茨城県北地域で女性技術者を増やすべく
企業・教育委員会と連携して中学生から働きかけ



茨城県北の企業・技術者を訪ねる女子中高生向け
PRバスツアー（2023夏）
即日満員！

マインド醸成に留まらない 地域に人が還流する仕組みの共創

国立大学の
これからは？

地域社会の課題に対し、教育・研究のルーティーンと大学運営に柔軟に取り込むレジリエンスが必要。
ステークホルダーとの対話とアクションを真摯に実践し、地域連携・共創の確固たる拠点を実現する。